

10月10日（火）その80 大谷と清宮と松井

日本ハムの大谷翔平投手が4日、札幌ドームで行われた本拠地最終戦のオリックス戦に夢の「4番・投手」の二刀流で先発し、最速162kmの剛速球を投げ、2安打、10奪三振で今季初完投初完封としましたね。スポーツニュースの映像を見て、大変感動しました。（スポーツ新聞も見せる！）

打っても4回にヒットを放ち、先制のホームを踏んで投打で活躍。シーズン終了後にポストティングシステムで大リーグ移籍の意思を固めている大谷にとって、日本のファンに別れを告げる“さよなら登板”となった。

大谷は高校卒業の時、日本のプロ野球に入らずアメリカに行くことを表明したが、そのことを承知の上で交渉権を獲得した日本ハムの栗山監督に説得されて、日本の球団に入ることを了承した。栗山監督が、大谷に「4番」の花道をプレゼントしたのだ。

日本での最後の登板を11球団のメジャー視察団が見守ったらしい。最近は大リーグに行く日本人も増えたが、田中もダルビッシュもマエケンも期待ほど活躍していない気がする。イチローや野茂のように長く活躍して欲しい。

一方高校生の清宮がプロ志望を表明した。「早実の先輩である王貞治さん。ずっと憧れをもって野球をやってきた。868本を目指せるような選手になりたい。」と発言した。それに対して張本勲氏は、テレビの「サンデーモーニング」で、清宮の才能を認めつつも、「いまの若い人はすごいね。まだプロ野球に入っていないし、（本塁打を）1本も打ってないよ。（それで）868本を打ちたいというんだもん。すごいこというね。われわれには考えられない。」と言った。言葉では言わなかったが、内心では「喝!!」だろう（笑）

「天才少年」はこれまでもたくさんいたが、高校とプロの違いを思い知らされたり、ケガをしてつぶれたりした選手も多い。確かに高校生No.1の111本もホームランを打ち、マスコミにもチャホヤされてハナタカさんになるのもわかるが、「はやく一軍に上がって、ホームラン王がとれるように頑張ります。」ぐらいにとどめておくべきだったのでは？と、私も思った。

日本や大リーグで活躍し、ワールドシリーズ MVP や国民栄誉賞も受賞した松井秀喜が、星陵高校時代に甲子園で「5打席連続の敬遠」されたのを、私はテレビで観た。1992年のことだ。高知の明德義塾高の馬淵監督は、超高校級の怪物・ゴジラに対して、なんと前代未聞の全打席敬遠を指示した。ランナーがいなくても敬遠だった。最終回にも敬遠されると、松井は顔色一つ変えずに悠然と一塁に向かって走っていったのを覚えている。

後日星陵高校の山下智茂監督の話を読んだことがある。松井も最初の頃は心ができていなく、バットを地面にたたきつけることもあったらしい。監督は長距離通学の松井に電車の中で読書をさせたという。最初は野球の本だったが、段々「宮本武蔵」や「徳川家康」、そして「中国の歴史書」などを読ませたらしい。「日本一のバッターを目指すなら、心も日本一になれ」といつも言っていたそうだ。

その松井でさえ大リーグの後半はケガに苦しみ、ホームランは、日米通算で507本だ。ちなみに日本のプロ野球のホームランの記録は、王貞治868本、野村克也657、門田博光567、山本浩二536、清原和博525、落合博光510、張本勲504本である。いかに王貞治の記録が孤高なものであるか、軽々しく口にしてはいけない言葉であったか。清宮はプロでホームランを打ち、その後のプロの洗礼も受けた後で、知ることになるのではなからうか。

10月11日（水）その81 「AOA47」に求められていること

後期の研究が始まって今日で出勤日が7日目ですね。10月2日（月）から研修が始まり、入所式、指導講師との連絡会等々、緊張の一週間が終了した。先週6日（金）、3連休を前に研究所の「頑張ろう会」が行われた。私や指導主事達も結構ハードな日程だったので、疲れを癒やすための心地よいお酒を飲むことができた。コミュニケーションを通して、やっとスーツを脱いだ研究生の素顔が見られたような気がした。その場で、チームリーダーの野原委員長からチーム名が発表された。「AOA47」に決めたそうだ。

私は本採用になって2年目の昭和56年（1982年）に結婚した。入籍したのは10月2日だった。昭和53年に大学を卒業してすぐに補充教員の申し込みをしたのに、なかなか話が来なかった。やっと10月から鏡が丘養護学校の補充教員をすることになった。ずっと夢だった「教員」になれた日が10月2日だった。3年後、私はこの日を二人の記念日にすることに決めた。

石垣市にある竹富町役場に入籍届を出した。新婚旅行は「西海岸」だった。西表島の西海岸を船とバスとボートを乗り継いで、船浮まで……。笑

そのことを後期の研究生と初めて対面したときに話をした。「実は今日10月2日は、私の36回目の結婚記念日です。このような日に皆さんと出会う……。うんぬんの前置きをしてから、「5分間所長講話」をやったのだ。

チーム名の「AOA47」は「アキラ・オオシロ・アニバーサリー47期生」（大城朗所長の記念日に会った47期生達）という意味らしい。まさか自分の名前がチーム名の冠につくとは思わなかった。面はゆいけど嬉しかった。

さてこれから研究生活に入るが、まず論文をまとめることの難しさに直面するだろう。「頭の中にあることを紙に写し取ることの難しさ」、「学習指導要領やその他の参考文献等から一部引用したものを、一本の筋の通った文章にまとめることの難しさ」、「なんとか完成した自分の文章に、指導講師や指導主事からの指摘に基づき、修正することの難しさ」、「理論と検証授業をつなげる難しさ」などなどの試練が待ち受けているだろう。

さらに指導講師や指導主事の突っ込んだ質問を受けて、自分の考えが曖昧だったことに気づかされることもあるだろう。

「♪♪みんな悩んで大きくなった！♪」古すぎてわからないかな？（笑）

大切なことはバックボーン（屋台骨）をしっかりと持つことである。それは学習指導要領であり、本県の施策などである。今回の各教科等の学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと押さえる必要がある。

子ども達に「学ぶ意義」をしっかりと持たせ、「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して、「生きる力」を身に付けさせるのである。

「生きる力」は、①知識・技能、②判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3点に再整理された。これまで学習指導要領は「目標や内容」を示して、指導の方法は各学校等に任されていた。しかし今回「主体的・対話的で深い学び」が全面に出てきたことは、「学びの方法」を初めて国が示したことになる。これらのことをしっかりと踏まえて、それぞれの研究テーマを設定してほしい。どのような理論にせよ、「主体的・対話的な深い学び」の具体的な実践例とその検証が、皆さんには求められている。

頑張れ！チーム「AOA47」（島尻教育研究所・47期生）！！

10月12日（木）その82 ソニーの社長がパートのおばさんに負けた！

世界的企業「ソニー」の創業者である井深大（いぶかまさる）さんの話です。「一流たちの金言」（致知出版社）から、一部を抜粋しました。

ソニーの社長時代、最新鋭の厚木工場ができましたが、一番の問題だったのがトイレの落書きでした。会社の恥だからと工場長にやめさせるよう指示を出し、工場長も徹底して通知を出した。それでも一向になくならない。するとしばらくして工場長から電話があり、「落書きがなくなりました」と言うんです。「どうしたんだ？」とたずねると、「実はパートに来てもらっている便所掃除のおばさんが、かまぼこの板に『落書きをしないで下さい。ここは私の神聖な職場です。』と書いて、便所に張ったのです。それでピタッとなくなりました」と言いました。

この落書きの件について私も工場長もリーダーシップがとれなかった。パートのおばさんに負けました。私はこのとき、リーダーシップというのは上から下への指導力、統率力だと考えていましたが、誤りだとわかりました。以来私はリーダーシップを「影響力」と言うようにしました。リーダーシップとは上から下への指導力、統率力が基本にある。けれども自分を中心として、上司、部下、同僚、関係団体……その矢印の向きは常に上下左右なんです。よきリーダーとは、よきコミュニケーターであり、人を動かす影響力を持った人と言うのではないのでしょうか。あの便所においては、パートのおばさんこそがリーダーだったのです。

行政文書には「通知文」というのがあって、簡単にいうと「やれ！」という命令書です。例えば皆さんの人事異動は、辞令一枚で動かねばなりません。

しかし仕事の指示や命令などは、一枚の文書だけで全職員に徹底させることは難しいのです。それがもし可能なら、学校には命令を出す校長と実践者の教諭だけいれば十分ということになります。また公立学校の校長には人事権がないから、言うことを聞かない人をやめさせることもできないのです。

山本五十六は、「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、褒めてやらねば人は動かじ」と言っています。

先日の「90分所長講話」で、「桃太郎のきびだんご」の話をしました。（5分間講話の「その64」参照）きびだんごとは、リーダーシップのことだと考えたと言いましたね。そこで「校長のきびだんご」として「職員のよさを束ねて学校経営」という理念で学校経営をしてきたことを話しました。

でも私は、どうしてもやらねばならないことは、例え全職員が反対してでも「絶対にやる！」と決めていました。そのためには、普段からのコミュニケーションや、そのことを聞いている人がやけどするくらい熱く語る熱意が必要であると思います。

私は、人を動かす一番の方法は、「感動させること」だと思っています。感動すれば、つまり相手の熱意や心を感じることができれば、間違いなく人は「感じて動く」ものだと思っています。

ソニーの工場で冷やかし半分にトイレに落書きをしていた社員が、「落書きをしないで下さい。ここは私の神聖な職場です。」というパートのおばさんの言葉にハッとさせられ、熱意や心を感じて動いたのでしょね。